

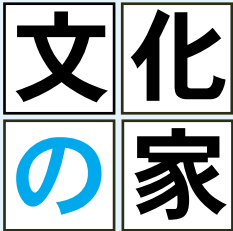
SPRING
2006
Vol.23

classic



nagakute
cultural
center
information
magazine

文	化
の	家



この情報誌では文化の家が行なう事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

CONTENTS

○ 特集	2
クラシック音楽をより楽しむために ～文化の家の取り組みと楽しみ方～	
○ TOPICS	8
○ INFORMATION	10



クラシ

と き：平成18年 2月14日(火)

場 所：長久手町文化の家

参加者：長久手町文化の家 館長 川上 貴
 長久手町文化の家 創造スタッフ 横田 真規子
 長久手町文化の家 事業係 生田 創

司 会：長久手町文化の家 事業係 石野 俊匡

■文化の家のクラシック音楽への取り組み

司会：今回は「クラシック音楽をより楽しむために」というテーマで座談会を行います。

文化の家では、年10回程度クラシック系の公演がありまして、その中で特に海外からの一流のアーティストのクラシックの招聘公演は年に1～2回くらい行っております。

今年はモーツァルトの生誕250周年ということもあって、漫画などでもクラシック音楽が取り上げられて、わりとブームになっています。それも絡めて、文化の家とクラシック音楽の関わり方、文化の家に来て下さる方へのクラシック音楽への案内ということで、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

館長：最初に、文化の家のクラシックへの関わり方ということで見たいと思うのだけれど、文化の家は講座や映画会なども含めて年間90本程の企画を行っていますが、そのうち、森のホールや風のホールを使った舞台系が約40本。その約40本の舞台系事業のうち音楽系が大体15本くらいです。その中でクラシックは、オペラも含めると、平成16年度の場合は8本です。舞台系全体は約40本ですので、40分の8ということになり、5分の1程度であります。他にジャズを含めたポピュラー系や民族系も随分と充実させてやっていますよね。演歌ももちろんありますし。それから、子供向けの音楽企画もやってみて、こういうものを充実させている。これらのものとクラシックの関係はどうだろう？

生田：そうですね。いろいろなジャンルを聴いていただきたいという気持ちが年々強くなっていて、当初よりバランスを考えながら今にきていると思いますね。

館長：お客さんの入りに関してはどうだろうか？

生田：クラシック系は、中身によってだいぶ差がありますね。この4月の佐渡裕さんのような公演（長久手誕生100年・

クラシック音楽をより楽しむために

～文化の家の取り組みと楽しみ方～

町制施行35年記念事業 佐渡裕&兵庫芸術文化センター管弦楽団)は知名度が高いので売れ行きが良いです。

館長: オペラも、愛知県立芸術大学(以下、県芸大)のオペラも間違いなくお客さんが入ります。2回公演の2回とも満席です。

もう一つ、全体の枠でちょっと触れておきたいのが、文化の家ではクラシックは8本ほどですが、その中にはアマチュアのものも入っていますよね。

司会: そうですね。町合唱団ニューセンチュリーコーラス Nagakuteの演奏会が年1回、長久手フィルハーモニー管弦楽団の公演が年2回ですね。そうすると、合計3本。

生田: それと、県芸大との提携による演奏会が3本あります。

館長: そうすると、それだけで計6本かな。

生田: そうですね。自主事業としては、純粋な招聘公演というのは文化の家オープン当初より減ってきています。

館長: 自主事業とは別に、貸館の事業の中で音楽系のものがたくさん入ってきているなかで、クラシック系がかなり増えていると思うのですが？

司会: そうですね。正確な数は把握できていないんですけども、ほぼ毎週末にピアノなどの発表会があります。

館長: あと、県芸大の卒業生や学生達も貸館で随分と多く使っているし、いわゆるプロの演奏家たちも相当多く使っている。その中では演歌とかはあまりないと思いますが、

やっぱりクラシック系が圧倒的な数にのぼる。これは流れとしていちおう頭に入れておく必要がありますね。

横田: 借りる側としては、発表会などの会場として、風のホールなどはとても器として魅力があるところなので、かなり名古屋や近隣にお住まいの方も使っていらっやいます。実は私も(自分のヴァイオリン教室の発表会などで)ホールを利用しているのですが、なかなか抽選に当たらないので取ることが難しくなっていますね。発表会を開くのが、1年後の予定が1年半後、2年後になってしまうんです(笑)。

それから、自主事業としての音楽系が随分少なかったことには、全く気が付きませんでした。発表会や演奏会を毎週のようにやっているし、ホールをとろうと思っても、なかなか抽選会で取れない現実もあるので。

生田: そうですね。草の根的に、地域の人に目を向けていって、大きな招聘公演は年に1度か2度やって、そこに繋げていく。ピラミッドの一番上が例えば外国の質の高いアーティストとすると、量としてはピラミッドの下の方が多くなっていて、バランスがとれてきたのかなぁと思いますね。県芸大の学生や先生が長久手町内の中学・高校吹奏楽部を指導する吹奏楽クリニックや、町内の吹奏楽団体が集結する吹奏楽フェスだとか、地域に還元するようなものが定着してきています。文化の家全館を使っているんな楽器に触れることもでき、ワークショップも行った「楽器の動物園」や、演奏家が学校へ出向いて演奏やレクチャーを行なうエデュケーションプログラム「であーと」もそうですね。そういうところにこそ力を入れていく必要があります。ピラミッドの下の部分が充実してきているように思います。その点、当初はただやみくもに企画ものをたくさんやることによって、とにかく文化の家をアピールしなけ



川上 實
文化の家館長
県芸大に着任したばかりの若いころ、往年の名歌手ゲルハルト・ヒュッシュのレッスンの通訳をしていた。同大の音楽学部長、学長を務めた。



横田 真規子
文化の家創造スタッフ
2歳半よりヴァイオリンを始める。愛知県立芸術大学音楽学部卒。現在、自身の演奏活動のほか、文化の家創造スタッフとしての活動などを通して、地域の文化振興に力を入れている。長久手フォレスト合奏団員。



生田 創
文化の家事業係
父親の影響で10歳よりクラシックを聴き始める。高校ではバンド活動、大学時代に学生オーケストラの創立に関わり、団長、指揮、チェロを務める。

ればという感じだったんですけれども。

館長：ジャンルを広げるといことと、教育プログラムの充実、さらに、創造スタッフを中心に保育園や福祉施設などへの出張演奏「音楽デリバリー」も含めてですね。底辺をどんどん広げ、強化していこうということですね。



数々のワークショップを行った「楽器の動物園」

生田：そうですね、逆に言えば、そういったことをしっかりやっておけば、あとは大きいところにおまかせという・・・（笑）

横田：私もそう思っています。文化の家のコンサートでは、クラシックの演奏会でも副題がついていたり、公演に関連したシンポジウムなど、事前にわかりやすい興味を引く事業があります。クラシック音楽を難しいからといって敬遠していた方にとってはとてもわかりやすく、音楽に親しめるのではないかと思います。そして、その方々が「じゃあ、今度は名古屋に行ってオペラの公演に行ってみようか」と考えていただける、そのような役割を文化の家が果たしている気がしています。

館長：今、横田さんが言われたように、クラシックの公演時には、さまざまな関連事業をしていますが、具体的にはどんなものがありましたか？

生田：例えば、去年行なったベルギーのロイヤル・フランダース・フィルハーモニー管弦楽団の公演は、初めて海外のフルオーケストラを招聘し、その機会を是非生かしたいと思いました。曲目が全部ベートーヴェンなんですよね。ベートーヴェンというどうしても固いイメージがあって、それをどうやったらすくい上げることができるかということで、食文化っていうちょっと変わったアプローチをしようと、「カフェ《ベートーヴェン・ホーフ（庭）》へようこそ！～トークとお食事と演奏～」という企画を行いました。ベートーヴェンが食べていたであろうメニューを実際にお客様に食べていただき、さらに、演奏とレクチャーまでついているというお得な企画で、ベートーヴェンの人柄や時代を「食」から探ってみました。会場の都合上、定員40名と限られてしまいましたが、コンサートと両方参加できた人は、



ロイヤル・フランダース・フィル関連企画
カフェ《ベートーヴェン・ホーフ（庭）》へようこそ～トークとお食事と演奏

すごく充実していたのではないかと思います。そういう多面的なアプローチの方法は常に考えています。以前、館長にもイギリスのア・カペラ合唱団タリス・スコラーズの公演に関連して講座を開いていただきました。そのときは、スペインの宗教曲がメインのプログラムだったので、スペインの教会や街並、建築についてレクチャーしていただきました。

館長：最大限の気を使ってクラシックを計画していますね。

生田：招へい公演については数が少ないので、最大限に機会を生かしたいと思っていますね。

館長：ところで先ほど少し触れた「音楽デリバリー」では、今は、どんな曲を演奏していますか？

横田：そうですね、必ずクラシックの曲を演奏しています。今は長久手町内の児童館を中心にデリバリーの演奏をしているので、児童館の先生からのリクエスト曲も積極的に取り入れています。それはアニメの主題歌だったりもするのですが、テレビのCMで流れてくる耳慣れたクラシック曲も演奏しています。そうするとプログラムの半分はクラシック音楽演奏になります。

館長：ああ、やっぱり半分くらいはクラシックが入るのでですね。

横田：はい、ちょっと無理やりってところもあるんですけど（笑）。ただ、音色の違いを聞かせたりだとか、解説を話しながらとか、いっしょに歌を歌ったりとか、1～2歳ぐらいのお子様からご父兄の方まで幅広く楽しんでいただいています。

館長：福祉施設などではどうですか？

横田：ホールに出向くことができない方を対象に、老人ホームなどを訪問しているのですが、すぐ目の前で喜んでいただいている感触を肌で感じながら演奏しています。いつものホールでの演奏会とは違った感動を私たちもいただいていますね。

曲目自体は、こちらリクエストを多く取り入れて、唱歌などを中心に、クラシックを1、2曲入れています。とにかくホールに行けないという方が多いので、楽しんでいただいているというのが直に伝わって、私たちも嬉しくて、いろいろな面ですごく勉強になります。

～文化の家の取り組みと楽しみ方～

館長：ガレリアコンサート(ロビーコンサート)もほぼ同じようなものでしょうか？



ガレリアコンサート

生田：そうですね、親子連れなど多くの方に受け入れられて、立ち止まっただけのものでもバランスを考えて組んでいます。

■クラシックとは何か？

館長：ところで、基本的なことに戻るけれど、クラシックとは何だろう？1行で表せるくらいで言うと。

司会：そうですね、クラシックは時代で区分をするんですか？

館長：ヨーロッパでも“クラシック”という言葉を使うんだよね。

生田・横田：そうですね。

館長：いわゆる古典派ばかりでなくて、もっと古く中世から現代のものまで含んでしまうようですね。

生田：そうですね、一言で言うのは難しいですね。

館長：もともとは日本生まれではなくて西欧の伝統的な音楽を指すのですが。

生田：基本的にはクラシックには譜面の重要性が、他のジャンルとは明確な違いだと思うんですけども、譜面っていうものを、再現するというか、再構築するという特殊なジャンルのような気がします。

館長：日本の民謡とかには、基本的には楽譜は存在しないわけではないですね。譜面ができたのはいつごろかな？西欧では、グレゴリア聖歌が始まった頃からでしょうか…

横田：確かに忠実に楽譜を再現していますよね。フォルテとかピアノなどの強弱も。

生田：そうですね。音符一つの単位まで、じっくり読み込んで再現するというジャンルはクラシックだけですよ。

横田：確かに。

生田：そうではあっても、あいまいな部分もあるので、い

ろんな自由度を音符が獲得して、演奏者によって変化が出てくるといって、その面白さがあるのかなあという気がしますね。

司会：逆に、譜面があることによって堅苦しさというか、型があって、初心者には入りにくさもあるのかなあと思うのですが、同じ譜面、同じ曲の、オーケストラによる演奏の違いなどは、どういうところをポイントにして聞いていくとわかりやすいでしょうか？

生田：「クラシック音楽は記憶の芸術だ」と誰かが言ったのですが、やはり、一つの曲を覚えてしまわないと、その違いは現れないと思うんですよね。繰り返し繰り返し耳にする。一回聞いただけで違いがわかる人がいたら天才ですよ。自分の中でこういう曲だと言える一つスタンダードがあって、そこから指揮者の違いとかオーケストラの違いとかが判ってくるのではないのでしょうか。オーケストラの音色の違いまでになると、例えばベートーヴェンの「運命」を最低で10回くらいは同じ演奏家で聞いていないと、他との違いは分からないかもしれません。

逆に言えば、一曲、パシッと覚えてしまえば、一生モノというか、宝になるというか。演奏者や指揮者の違いや、演奏される時代によっても変化がある。しかし、滅びないということが約束されています。クラシックはすでに何百年も生き続けていますから。自分の中にスタンダードを獲得することの価値の大きさが、クラシックの奥深さに繋がっているのではないかなと考えています。

館長：それは演奏家の方でもちゃんと意識しながらやっているのかな？

横田：確かに、指揮者によっても全然違いますし、私はフリーなので、いろんなところでいろんなオーケストラに参加しているのですが、オーケストラによって全然違う弾き方をしなければいけないこともあります。何か違うんですね。

また、例えば同じオーケストラで同じベートーヴェンの「運命」を演奏しても、指揮者によっても全然違いますよね。それも、本当に不思議なんですけど、いわゆるいい指揮者(好きな指揮者)だと、いろいろ発見があって、音楽に魅せられてあっという間に曲が終わった感じがして、演奏者も聴衆も一緒になって感動します。でも、曲を長く感じたり、音楽に惹き付けられないなっていう指揮者もいて……。それが、同じ譜面で同じシチュエーションで同じメンバーでやっているのにも関わらず、気持ちでそこまで違うというのは、考えてみたら興味深いことですよ。

話は変わるんですけど、さっき生田さんがおっしゃっていた、自分のスタンダードということにとっても共感しました。イツァーク・パールマンのヴァイオリン演奏が好きで、小さい頃からパールマンの演奏ばかり聴いていました、例

例えば、メンデルスゾーンのヴァイオリンコンチェルトはとても有名な曲で、いろんな方がCDを出していて、いろんな演奏を聴くんですけど、やっぱりパールマンに戻ってしまうんです。そして、パールマンに近い演奏をしている人が好きになって……。好みという点で、同じ曲を何度も聴く楽しさを得てくというのはクラシックの面白さかなあと思います。

生田：そうですね。それから、最初にどんな曲を、どんな演奏家で、どんな環境でどんなタイミングで聴くかによって、クラシックを好きになるかどうかが決まってしまうこともありますよね。そこが、すごく大事だと思いますね。今、僕は初めて聴くには、生演奏を、と思っているんです。だから、逆に言えば企画を担当する者として責任重大なんですけど（笑）

横田：ホント責任重大ですね。

司会：名演奏とされているCDなどを聴くのではなくて、生演奏にこだわる理由ってのは、なんですか？



音楽デリバリー

横田：その答えは、さっきも少し触れましたが、「音楽デリバリー」で感じています。児童館で演奏するときはずっと、子どもたちのすぐ近くで演奏をしてみるんです。子どもたちが座っている真ん中に立って、まず、最初はわざと汚い「ゴリッ」という音を出してみる。そして、弾きかたを変えて、「山の音楽家」のような良く知っている曲を、今度はきれいな音で少し弾いてみると、子どもたちもお母さん方も目を丸くして、「ヴァイオリンって、こんなに大きくなってキレイな音がするんだ」と言ってくださいます。そして、演奏会の後にはヴァイオリンについてのいろんな質問をしてくださいます。きっと初めて聴いてくださったんだろうと思うと、「ヴァイオリンの音色は美しくて素敵な音だね」と感じてくださるように常に努力しなければいけないって、いつも思います。

生田：そこに人がいるってことでしょね。例えば、愛知県芸術劇場のコンサートホールのステージ横の席で聞いたら、ホルンがこっちを向いていてその音しか聞こえなかったり、CDよりバランス悪かったりするんですけど、逆にCDにはない発見や面白さがあって、やっぱり、そこに人がいるからじゃないかなあと思うんですけど。

館長：録音の仕方も細切れを貼り合わせたりとか、いろんな技術あるんだよね。

司会：そうですね、ピアニストのグレン・グールドなんかは、何十回と録って、いい部分だけを編集作業で繋ぎ合わせていますね。ライブ盤でも、特にポピュラーのライブ盤は気に入らないところはスタジオで録って差し替えてってというのはよくあるそうです。

生田：それに、再生する環境がいろいろじゃないですか。例えばオーケストラをテレビで聴けば、小さいスピーカーで百人ちかくの音を流すわけで、それと生では全然違いますよね。

横田：さっきの話でも、ホルンの音だけが聴こえるっていうのも面白いですよ。ここで、どういう風にホルンが活躍しているのかっていうのも、新しい発見があって。

司会：そういう違って、専門家や聴きなれた人はよくわかるんでしょうけれど、初心者の方は、どんな曲から、大体どの辺にポイントを絞ってあげればいいのか。まず、聴く時にここにポイントを絞ってということがあったら教えて欲しいんですけど。



第3回長久手オペラ声楽コンクール2004

館長：文化の家では、「長久手オペラ声楽コンクール」や解説付きで初心者でも楽しめる「長久手オペラ」など、オペラに力を入れているけれど、オペラはストーリーがあるし、視覚的で分かりやすい。僕は学生の時に、NHKが招いた最初のイタリアオペラを聴きに行きました。徹夜で並んでね。あの時は感動したなあ。

横田：私もオペラは最近好きになったんですけど、私の父が言っていたのは、オペラはやっぱり言葉の問題がある。言語がわかっていなければ、本当の感情とか本当の意味というのがなかなか理解しづらくってなかなか難しいってことになってしまっただろうなって。



愛知県立芸術大学大学院オペラ公演「カルメン」

館長：言葉っていうのは確かに壁ではあるけど、ファンは繰り返し何回も見るとよ。毎年の県芸大院オペラは日本語で上演していますね。

司会：初心者の方には、オペラはストーリーがあって取っ付きやすいから、そのストーリーを予習してから見るといいと。そこから、演奏の個々のものというか、楽器などに進んでいくということですか？

～文化の家の取り組みと楽しみ方～

横田：私はヴァイオリンとは言わずに、オーケストラが一番じゃないかと思います。実は、私がヴァイオリンを始めたきっかけは、母が果たせなかった夢を私に託して、半ば強制的に練習させられていたんです。そんな私が本当にクラシックの音楽が好きになったのは、子どもの頃入団していた名古屋青少年交響楽団でワーグナーの「マイスタージンガー」の前奏曲を演奏してからだと思います。曲にいろんなストーリーがあって、美しいメロディやミステリアスなメロディがあり、そして管楽器がガンガン鳴ってとても気持ちが良いんです。指揮者は渡辺暁雄さんだったんですが、「同じ箇所にも、違う楽器が全く違う美しいメロディをいくつも重ねて演奏しているのに、こんなに全体として美しい」と解説していただき、子どもの私には新鮮で興味深いお話でした。そして、ヴァイオリンを弾く以外にも、自分の役割が分かってきて、どんどん面白くなりました。今ではオペラも大好きなんですけど、小学生だった私には、甘いメロディを聴いたり演奏したりすることがとても感動的でした。

生田：そのことに関して、制作サイドにいてよかったと思えることは、リハーサルに立ち会えるということですね。リハーサルって、何べんも何べんも「返す」じゃないですか。実はそういうところが音楽の重要なポイントだったりするんですよ。みているうちに聴くポイントが自ずと記憶されていくのです。それが増えれば増えるほど楽しくなってくると思うんですけど、そこがクラシックを好きになるかどうかの最初のカギだと思うんですよ。例えワンフレーズでも……。横田さんのお話にあった「マイスタージンガー」を振った指揮者は、そういう話をお客さんにしてほしかったですね。お客さんは本番＝完成品だけを聴いてるんですよ。背景をお客さんが頭の中でイメージできるというのは相当レベルの高い話であって。実は、演奏家とか裏方の人達だけが、おいしい思いをしていることって、結構あるんですよ。それをなんとか表に出すのが大事だと思うのです。それが、最初の関連企画の話に繋がるんですけど佐渡さんの公演でもリハーサルを公開にします。

■最近のクラシックブームについて

生田：ところで、「Best Classic 100」というCDが6枚組で今、出ているんですけど、60万枚売れているらしいですよ。クラシックって1万枚売ればいいらしいんですけど。そのアルバムって、ほんとの部分部分だけなんです。楽章の中でもいいとこだけ、有名なフレーズだけっていうか。ようは、それが売れるだけ、それだけ甚にクラシックのメロディがあふれているってことなんですよ。

館長：今はCMやバックグラウンドミュージックではすごくクラシック系の音楽が流れているよね。聴こえてくるのがほとんどクラシック系で、民謡や演歌はあまり流れてこな

いね。音楽環境としては、日本人も「クラシック」なんていう風に差別しないで聴いているのかもしれないね。クラシックのポピュラーっていう言い方があるけど、誰が聴いてもわかってポピュラーになっちゃってる。

司会：そのCDが売れているっていうことは、いいことなんじゃないですか？

生田：すごくいいことだと思いますよ。たとえば美味しいフレーズだけ抜き出してあったとしても、クラシックに対する意識が絶対違うと思うんですよ。かつてのように“クラシック”という言葉を目にした時に「自分とは全く関係ない」と思うのではなく、「あ、ちょっといいかも」みたいな。そこをうまく、アーティストや音楽関係者の方々が上手にすくいあげて、それに見合ったものをちゃんとした形でタイミングよく世の中に出して、次に繋がるといいなと思います。

横田：私も、その「Best Classic 100」には興味があります。例えば、CMで流れていた曲が、これはワーグナーのなになんだよって言えるくらいの知識が少しは欲しいなっていう人には、便利でお得ですよ。そして気に入った曲に出会えたら、それを全曲、本物の音を聴きに文化の家に来ていただく！大切なのは、ブームにのせて、その勢いがとまらないように繋げていくことだと思います。

館長：例えば、自分でアリアを歌ってみたり、楽器を触ってみたりとか、そういうところで全然違ってくると思うんです。

横田：その通りだと思います。文化の家のアートリビング講座では、私が講師として、大人向けに2講座、子ども向けに1講座、ヴァイオリン講座をひらいているのですが、受講生の皆さんは、雲の上の存在と思っていたヴァイオリンが、思ったよりも親しみやすく演奏できるようになることを、とても喜んでくださっています。ご自分のお子さんや奥さんがヴァイオリンを習っていれば、「クラシックは苦手」って思っていたお父さんが発表会を見に来てくださいますし、おじいちゃんやおばあちゃんも見に来てくださいます。そして、子どもが好きになった音楽であれば、一緒に演奏会に行く機会も増えるはずですよ。

生田：そういう次のステップへの誘いが一番重要だと思うんですよ。文化の家としては、CDやCMでクラシックに目覚めたら、その次のステップで是非劇場へ生演奏を聴きにきてくださいと（笑）。

司会：きれいにまとまった所で、この座談会を閉めたいと思います。本日はありがとうございました。

TOPICS



日本劇作家大会2005長久手大会

長久手町劇団
「座★NAGAKUTE」の指導者

佃 典彦さん

第50回岸田國土戯曲賞
愛知県芸術文化選奨文化賞

受賞

長久手町劇団「座★NAGAKUTE」の指導者で、昨年9月1日～4日まで文化の家で行われた「日本劇作家大会2005長久手大会」の運営委員長、さらには座★NAGAKUTE第13回公演「ねこ・こんさるたんと」の演出も務めた、佃 典彦（つくだ のりひこ）さんが、「第50回岸田國土戯曲賞」を受賞されました。この賞は、演劇界に新たなる新風を

吹き込む新人劇作家の奨励と育成を目的に設置された賞で、「演劇界の芥川賞」とも呼ばれています。過去の受賞者には、井上ひさしさん、野田秀樹さん、宮藤官九郎さんなどがいます。

佃さんは、名古屋を中心に活躍する劇団「B級遊撃隊」を主宰し、多くの戯曲を他劇団にも書き下ろしている劇作家です。今回の受賞作品は、昨年5月に東京の文学座アトリ公演で上演された「ぬげがら」。東海地方での劇作家の同賞の受賞は、北村 想さん以来22年ぶりの快挙となります。

また、芸術文化の各分野において新生面をひらき、業績顕著で将来を嘱望される個人や団体などに贈られる、平成17年度愛知県芸術文化選奨文化賞も受賞されました。



日本劇作家大会2005長久手大会の最後にあいさつをする佃典彦さん

長久手版CATS? ~長久手町劇団 座★NAGAKUTE 第13回公演「ねこ・こんさるたんと」

毎回、素敵なお芝居で楽しませてくれる長久手町劇団 座★NAGAKUTE。今回は、なんと歌と踊りにも挑戦、別役実作の「ねこ・こんさるたんと」を上演しました。猫と飼い主との不思議な関係とその謎を、ねこ・こんさるたんとが解明しようとする、不思議なお話。ユニークな野良猫の衣装や、フィナーレでは、巨大な観覧車のシルエットが浮かび上がり、幻想的な世界に見る者を引き込みました。



事業倶楽部事業

11月～3月にかけて事業倶楽部事業が4公演行われました。事業倶楽部事業は文化事業に積極的に関わる人たちが鑑賞団体を組織し、長久手町と事業倶楽部事業が主催で公演を行うものです。

事業倶楽部ならではの個性ある公演が催されました。

11月19日（土） 森のホール
まほろぼパストラルコンサート

12月2日（金） 森のホール
山田耕祐の世界 ～構成・川口耕平～

2月4日（土） 森のホール
Open The Door～
鎮守の森の宴

3月4日（土） 風のホール
ハーブ&ピアノ メゾソプラノと共に

文化の家 利用者の祭典！！

感創彩舞 僕らの文化をみんなに…

第7回長久手町文化の家フェスティバル

毎年恒例の文化の家の利用者の祭典が平成17年11月に開催されました。日頃、文化の家で切磋琢磨している利用者が集って、実行委員会形式で企画から広報、準備、当日の運営までを行っています。

今回、舞台部門では舞踊、ダンス、琴、合唱、室内楽など15団体、パフォーマンス部門は藍染め・草木染め体験教室、陶器ペイント体験教室の2団体、展示部門は7団体が参加しました。



第7回長久手町文化の家フェスティバル 舞台部門

第3回長久手町文化の家バンドフェスティバル

平成17年12月4日（日）風のホールで、日頃、アートリビング「音楽スタジオ」などで練習をしている軽音楽バンドが集まり、バンドフェスティバルが開催されました。バンドフェスティバルも実行委員会形式で行われ、学生から社会人まで幅広いジャンルの7バンドが熱の入った演奏を披露しました。



第3回長久手町文化の家バンドフェスティバル

ダンスホールとなった森のホール～ フレンズのつどいPart.14 クリスマスパーティーしゃるういだんす



ラテン音楽とダンスの共演「第1部」

「フレンズのつどい」も14回目を迎えました。第1部は「ロス・アフロ・クパノス」によるラテン音楽。そして第2部は参加者との交流を深めるために交流会を行いました。

第3部は参加者も一緒になってダンス講習会とレッツダンス。平土間の森のホール舞台上で着飾った大勢の参加者と出演者が一緒になってマンボ、ジルバを踊りました。



響き渡る吹奏楽の音～ 第2回吹奏楽フェスティバル in NAGAKUTE

前回の大好評にお応えして、1月22日（日）森のホールで、第2回吹奏楽フェスティバルin NAGAKUTEが開催されました。出演団体は、長久手町立長久手中学校、長久手町立南中学校、愛知県立長久手高等学校、私立栄徳高等学校の吹奏楽部と、愛知県立大学吹奏楽サークル、長久手フィルハーモニー管弦楽団チェンバーアンサンブル、煌の7団体。

第1部は、それぞれの団体による演奏で、独自の演出を織り交ぜるなど、工夫にとんだステージで観客にアピールしました。

第2部は総勢220人による大合奏。長久手町在住の作曲家、長尾洪基さん指揮による大迫力の演奏で観客は圧倒され、アンコールの拍手がなかなか鳴り止みませんでした。



220人による壮大な大合奏

華麗なるステージ～長久手町合唱団 ニューセンチュリーコーラス Nagakute 第8回定期演奏会



オペラ ア・ラ・カルト

毎回色々な趣向を凝らし好評を得ている長久手町合唱団ニューセンチュリーコーラスNagakuteの定期演奏会は今回で8回目を迎えました。

第1部は、混声合唱組曲「海鳥の詩」にあわせて、岩棚をイメージして合唱台を組み、厳しい自然の中で、精一杯に生きる海鳥の姿が目に浮かぶような熱唱でした。

第2部は、がらりとイメージを変えてオペラの名曲をとりそろえた「オペラ ア・ラ・カルト」。にぎやかなジブシーの唄やしっとりとしたアリア、最後は盛大な「乾杯の歌」で幕を閉じました。

提携事業

愛知室内オーケストラ・母の日コンサート ～お母さんに音楽の花束を～

地元県立芸術大学の卒業生による、若さ溢れるアンサンブルです。母の日に気軽なコンサートはいかがですか？

- 【と き】 5月14日(日) 午後2時開演(午後1時15分開場)
※午後1時30分よりホワイエでミニコンサートあり
- 【ところ】 森のホール
- 【入場料】 一般1,500円、フレンズ1,200円、学生(小学生以上)1,000円、親子ペア券(大人1人・学生1人)2,200円
※未就学児の入場は無料。要整理券
- 【指揮】 平光保
- 【歌・お話】 伴真由子
- 【出演】 愛知室内オーケストラ
- 【曲目】 ドヴォルザーク「母の教えてくれた歌」
イエッセル「おもちゃの兵隊」
メンデルスゾーン交響曲第4番「イタリア」ほか
- 【主催】 長久手町・愛知室内オーケストラ



提携事業

イルマの幸せカフェ

さまざまなジャンルの音楽をボサノヴァ・テイストで奏でる“魂のワールドミュージック”

- 【と き】 6月17日(土) 午後2時開演(午後1時30分開場)
- 【ところ】 文化の家 風のホール
- 【入場料】 前売：一般3,200円、フレンズ・学生・車椅子席2,800円、ペア・チケット6,000円
当日：一般・フレンズ・学生・車椅子席3,500円
※全指定席
※未就学児の入場はご遠慮ください
- 【主催】 長久手町、Oceano Music



羽ばたきコンサート 新しい波・2006 炸裂ブラームス

クラシックは生が一番！地元若手実力派の熱き想いが“炸裂”する！

- 【と き】 7月2日(日) 午後3時開演(午後2時30分開場)
- 【ところ】 風のホール
- 【出演者】 平出真彌(ヴァイオリン/プロデュース)、鈴木宗弘(ヴァイオリン)、新谷歌(ヴィオラ)、山際奈津香(チェロ)、菅原拓馬(ピアノ)
- 【曲目】 ブラームス：ハンガリー舞曲第5番、ピアノ五重奏曲ほか
- 【入場料】 前売：一般1,000円、フレンズ900円、学生500円
当日：一般・フレンズ1,300円、学生800円
※未就学児の入場はご遠慮ください。



事業倶楽部事業

シサイコンサート

愛・地球博のアンデス共同館で演奏したエクアドル出身のネイティブアメリカン「シサイ」による中南米音楽をお楽しみください。

- 【と き】 7月7日(金) 午後7時開演(午後6時30分開場)
- 【ところ】 風のホール
- 【入場料】 前売：一般 3,000円 フレンズ会員 2,700円
当日：3,500円
※未就学児入場可。ただし、席が必要な場合はチケットを購入してください。
※全指定席
- 【主催】 シサイコンサート事業倶楽部・長久手町

長久手こども劇場

ブラックライトシアター大型人形劇 エリック・カールの「はらぺこあおむし」

カナダの劇団マーメイドシアター・オブ・ノーバスコーシアによる大型人形劇。ベストセラー絵本「はらぺこあおむし」ほか2作を、岸田今日子のナレーションにのせてお届けします。

- 【と き】 7月26日(水) 午後4時開演(午後3時30分開場)
- 【ところ】 森のホール
- 【入場料】 大人1,500円、フレンズ1,300円、こども500円



音楽座ミュージカル「泣かないで」

音楽座による待望の再演、遠藤周作著～わたしが・棄てた・女～をミュージカル化した「泣かないで」。「幸せ」とは何か？を問いかける、究極の愛の姿を描いた感動の舞台です。

- 【と き】 7月30日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場)
- 【ところ】 森のホール
- 【入場料】 未定



文化の家ガレリアコンサート2006

文化の家ガレリアコンサートが多彩な顔ぶれでリニューアル！

- 5月9日(火) 午前11時～
Vol.2 情熱のスパニッシュ・ギター
大嶋芳(ギター)

情熱をかき鳴らす右手、哀愁を響かせる左手。日本で唯一の「ロメロ奏法」を体得するギタリストの珠玉の名曲集です。



- 6月13日(火) 午前11時～
Vol.3 文化の家発信！創造スタッフ・コンサート
横田真規子(ヴァイオリン)、武田美保(ソプラノ)、市橋あゆみ(ピアノ/ゲスト)

音楽の“華”ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノ。文化の家創造スタッフたちの煌々アンサンブルをお楽しみください。



- 7月29日(土) 午後1時～
【北欧LIFE プレ・イベント】
Vol.4 ミンストレル・オード(フィドル：大森ヒデノリ、ギター：岡崎泰正)

フィドルとギターが北欧の澄み切った空気を奏でます！北欧音楽を奏でる数少ない実力派アーティストによる贅沢なコンサート。



映像鑑賞会

- 4月15日(土) 『ローマの休日』(1953年・米) 118分
5月20日(土) 『マイ・フェア・レディ』(1964年・米) 173分
6月18日(日) 『ゴッドファーザー』(1972年・米) 175分
7月22日(土) 『となりのトトロ』(1988年・日本) 88分

- 会場：光のホール
上映時間：1日2回…第1回：午前10時から
第2回：午後2時30分から
※「となりのトトロ」のみ三回上映《午前10時から/午後1時から/午後3時30分から》です。
開場：上映開始30分前
入場料：無料(定員各回先着100名)
※上映15分以降は入場をお断りします。
※都合により上映作品が変更になる場合があります。

◆チケット購入方法◆

公演チケットは、文化の家、アピタ長久手店2階長久手町サービスコーナー(Nピア)、チケットぴあでお買い求めいただけます。

- 文化の家チケット専用電話 0561-61-2888
- 長久手町サービスコーナー(Nピア)(アピタ長久手店2階) 0561-63-9200
- チケットぴあ 0570-02-9999

- ※ 前売り完売の場合、当日券は販売いたしません。
- ※ フレンズ価格での販売は前売りのみです。
- ※ 出演者などは都合により変更になる場合があります。
- ※ 未定部分につきましては、広報長久手または各事業のチラシにてご確認ください。

募集!

平成18年度 長久手町文化の家 第2期アトリビング講座受講生募集

アトリビング講座は文化の家の自主事業で、芸術・生活文化関連を中心に開講している講座です。平成18年度第2期は「子どもミュージカル」、「ゴスペル」など、多彩な内容となっております。

募集期間：4月1日(土)～23日(日)

受付：文化の家窓口にて受付。

※町内在住者優先

※申込者多数の場合は、29日(土)午後2時から講義室1で公開抽選を行います。

講座名	期間・曜日・回数	時間帯	受講料	対象
童謡・唱歌	5月～3月 火曜 24回	15:00～16:00	18,000円	40歳以上
子どもミュージカル	5月～3月 火曜 35回	17:00～18:30	26,000円	年長(5歳)～小学生
ゴスペル	5月～3月 火曜 24回	19:00～20:00	18,000円	中学生以上
フルート(初心者向け)	5月～3月 火曜 22回	10:30～12:00	17,000円	15歳以上
フルート(初～中級者向け)	5月～3月 火曜 22回	13:00～14:30	17,000円	15歳以上
陶芸(昼間)	6月～9月 日曜 12回	14:00～16:00	9,000円	15歳以上
陶芸(夜間)	5月～9月 木曜 12回	19:00～21:00	9,000円	15歳以上
基礎から学ぼう!バイオリン	5月～3月 木曜 24回	10:00～12:00	18,000円	15歳以上
仲間を作ろう!大人の楽しいバイオリン合奏	5月～3月 木曜 18回	14:00～15:30	14,000円	15歳以上
仲間を作ろう!子どもの楽しいバイオリン合奏	5月～3月 木曜 18回	16:00～17:00	14,000円	小学生
子どもクラシックバレエ(小1・2)	5月～3月 土曜 30回	10:30～11:30	23,000円	小1～2
子どもクラシックバレエ(小3～中学生)	5月～3月 土曜 30回	11:30～12:30	23,000円	小3～中学生
大人クラシックバレエ	5月～3月 土曜 30回	12:30～13:45	23,000円	15歳以上
パソコン(Word&Excel)	5月～7月 土曜 8回	13:30～15:00	6,000円	中学生以上
ホームページ作成	8月～9月 土曜 6回	13:30～15:00	4,500円	中学生以上
子ども美術	6月～9月 土曜 10回	10:00～12:00	8,000円	年長(5歳)～小学生

※受講料以外に材料費、教材費などがかかる講座もあります。詳しくは文化の家にお問い合わせください。

平成18年度フレンズ会員募集

平成18年度文化の家フレンズの会員を下記のとおり募集しています。

●会費●

個人会員	年額1,500円 (ただし、10月1日以降の入金の場合は1,000円)
家族会員 (個人会員と住所を同じくする家族)	年額1,000円 (ただし、機関紙・事業案内などの郵送は省略させていただきます)
法人・グループ会員	年額15,000円 (ただし、10月1日以降の入金の場合は10,000円)
※会員の有効期限は、4月1日から翌年の3月31日までです	
年度の途中で入金する場合は、入会日から最初に訪れる3月31日までになります	

●特典●

1	文化の家自主事業チケットの割引 (10%程度割引、会員1人につきチケット2枚まで、法人・グループ会員は20枚まで)
2	文化の家自主事業公演チケットの先行発売
3	機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
4	フレンズが行う文化事業、交流事業への参加

【申込方法】文化の家事務室にて、住所、氏名、電話番号を記入の上、年会費を添えてお申し込みください。

フレンズスタッフ募集中

フレンズスタッフを、常時募集しています。フレンズスタッフはホールスタッフなど、文化の家をサポートする活動や、フレンズが行う交流・研修などの催しに参加していただけます。



フレンズスタッフ会議

編集後記



3月12日午後のほぼ満席の「森のホール」、オーケストラ・ピットからバレエ「くるみ割り人形」の聴きなれたメロディー「花のワルツ」が響き始めると、パステル調の華麗な舞台が現れ、小学生から大人まで60人余のバレリーナたちが次々とワルツを踊る。文化の家の年度末に恒例の「アトリビング講座発表会」クラシックバレエの部の開幕である。発表会といえども舞台美術も照明も、バレリーナの装いもみな本格的で、その上40人余からなるオーケストラを備えている。プロのバレエ団もうらやむに違いない自前のオーケストラ…。ヴァイオリンを中心にしたこの団員は実はバレリーナと同じくアトリビング講座の受講生たちである。

芸術系のアトリビング講座は成果の発表を前提としていて、それぞれの演奏・公演と同時に舞台裏や舞台マナーも体験し、さらに他のジャンルとのコラボレーションにも大胆に挑む。このバレエと器楽の受講生たちとのコラボレーションは3年前からの試みだが、演劇公演の舞台づくりに美術の講座も参加するなど、さまざまな連携策が探られている。

芸術は音楽、美術、舞踊など表現の仕方は異なっているけれども、感性的なものの現れという点でルーツを共有している。表現の技術はまだままだであってもこうした広がりへの実体験は視野の拡大ばかりでなく、感性の深まりにもつながると思う。

文化の家館長 川上 實

5月14日(日) ■森のホール 午後2時開演
提携事業 愛知室内オーケストラ 母の日コンサート

6月10日(土) ■森のホール 午後3時開演
日本舞踊へのいざない ~みんなで創る日本舞踊ワークショップ~

17日(土) ■風のホール 午後2時開演
提携事業 イルマの幸せカフェ

7月 2日(日) ■風のホール 午後3時開演
新しい波・2006 炸裂ブラームス

7日(金) ■風のホール 午後7時開演
事業倶楽部事業 シサイコンサート

26日(水) ■森のホール 午後4時開演
長久手子ども劇場 ブラックライトシアター大型人形劇
エリック・カールの「はらぺこあおむし」

30日(日) ■森のホール 午後2時開演
音楽座ミュージカル「泣かないで」

8月 6日(日) ■森のホール 午後4時30分開演
フレンズのつどいPart.15 感動の和の響き =津軽三味線と民謡ライブ=

20日(日) ■森のホール 午後3時開演
長久手子ども音楽劇場 クリス&祥子パーカッション コンサート
~音とリズムのびっくり箱~

9月13日(水)
~17日(日) ■森のホール
第4回長久手オペラ声楽コンクール

24日(日) ■森のホール 午後3時開演
室内楽の楽しみ

30日(土) ■森のホール
北欧LIFE~くらしの中のアート
「ラーナリム・ライブ」

classi

長久手町文化の家

〒480-1131

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1

お問合せ=tel.0561-61-3411/fax.0561-61-2510 チケット専用=tel.0561-61-2888

<http://www.bunka.nagakute.aichi.jp>

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)および年末年始

開館時間 = 午前9時~午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス5番乗り場、長久手郵便局下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、N-バス [Cルート] 長久手郵便局下車、徒歩8分
[Fルート] 文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩5分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分

